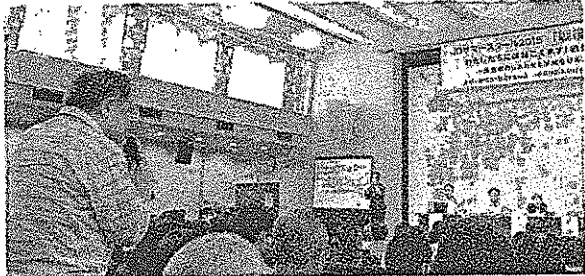


8/29  
平和

# “平和だから胸張れる”

## 障害者協議会「戦後70年」集い

「戦後70年と障害者」をテーマに、日本障害者協議会（JD・藤井克徳代表）は28日、東京都内で集会を開き、全国から約500人が参加しました。精神科医で戦後60年以上たつてから発症した沖縄戦由来のPTSD（心的外傷後ストレス障害）をみつけた蟻塚亮二さんが「沖縄戦の心の傷が今に問うもの」と題して基調講演。障害者、沖縄、福島は同じように差別を受けてきたと述べ、戦後70年は何だったのか考えようと提起しました。



パネルディスカッションでは、3人の戦争体験障害者が平和への思いをそれぞれ語りました。

聴覚障害のある東京の水野ミサさん（89）は、戦中、ろう者としての差別体験を振り返

り、「手話通訳の制度を発展させたい」と訴えました。

戦後まもなく、小2のときに不発弾爆発で両目両手首を失った大阪の藤野高明さん（76）は「戦後も戦争は続いた」と強調。「戦争になれば障害者は肩身が狭くなる。胸を張って堂々と発言できるのは平和だからだ」と語りました。

東京都内の肢体不自由児学校の元教員、松元昌介さん（79）は、都が育鵬社の歴史と公民教科書を探検したことに触れ「日本の戦後教育の中で築いてきたものが壊されそうになっている」と危惧しました。

フロアからの発言も相次いだJDの集会  
11月28日、東京都千代田区